

## 中国主導の「ニカラグア運河」をブラジル金鉱山の益金から工事再開

**パナマ運河は、永久的に米国の経営で、36 艇/日 平均一艇六百萬円との事だが、**

中国企業が、パナマ運河に対抗する運河を、ニカラガで建設計画を勧めて居たが、

パナマ運河の3倍の278 km (ウィキペディア = 3.5 倍の259.4 km) と云う長さで、

2014年12月22日に着工式典を開催し、2019年完成予定だったが、

北京に本社が有る「信威通信産業集団」(王靖会長・大富豪・共産党との繋がりが強い)が、

資金枯渇状態に成り、中国共産党の追加支援が、望めない危機の為、

中国主導の「ニカラグア運河」は、絶望的に成った。

怪しげな香港のHKND(香港ニカラグア運河開発投資公司)が、資金不足で、

倒産の危機に直面した。

中国がパナマ運河に対抗して、ニカラグアに運河を建設する大プロジェクトは、

日本円にして6兆円規模で、気が遠くなる稀有壮大な夢の実現と騒がれた。

ニカラグアのサンディニスタ左翼政権は、派手に米国に敵対して来たが、

複数政党制に成り、政策は、頓挫する可能性も有り、ニカラグアは、

中国とは国交が無いので、更に、中国主導のプロジェクトは、見込め無い。

台湾と外交関係が有る不思議な左翼的国家で、反米的な国家で有る。

米国から見れば、パナマ運河のすぐ北に競争相手も云うべき大運河が、建設されると聞けば、安全保障上からも、脅威で、裏で妨害工作をするだろうと予測して来たが、妨害も無く、地元の環境保全の運動にも、表立った支援をなして居る様相は無い。

米国は、此の計画は最初から無理で、途中で放り投げてしまうだろうと楽観視して来た為で、

プロジェクトは、一年遅れてスタートしたが、着工するやすぐに、環境保護団体の抗議活動、土地が沈む農民らの反対運動の激化に見舞われた。

然し、其れ等がニカラグア運河のプロジェクトを絶望的にして居るのでは無く、絶望の原因は工事請負の中国企業の怪しさに有った。

2013年に計画が纏り、14年に着工され、19年完成という当初の大風呂敷は、風に、はためく大旗のようにへんぼんと翻るだけで、実は、2015年の上海株大暴落、人民元急落の直撃を受けて、王靖の懐具合が急激に悪化し、資金枯渇状態に陥った。

背後に有る中国共産党も、国有企業の数社に指令して資金を供出させた物の、飽く迄、「民間企業の事業」と装って居る為、其れ以上の支援は出来無い。

例えば、世界中で、中国はプロジェクトを打ち上げた儘、出資の段階で、

『送金の許可が下り無い』等の言い訳で、送金をし無い。

インドネシアの鉄道建設が、頓挫している話も有り、独逸の民間空港も、  
中国の出資が決まったのに、突然、出資取り止め、独逸は、御冠状態で有る。

対するパナマ運河は、拡張工事が完成し、2016月6月26日、  
パナマでは、完成祝賀式典が開催され、盛大に運送力増加を祝った。

影で、笑って居るのは、経営権の有る米国で、米国は、此の計画は最初から無理で、  
途中で放り投げてしまいうだろうと無視して居たとの事です。

中国のお金に物を言わせた外交での世界進出も、中国経済の成長鈍化で、  
そろそろ限界に達して来たと思われれます。

其処で、カリブ海とニカラグアを結ぶ運河をテコに、経済成長を図ると云う、  
オルテガ大統領のシナリオを三宅昭夫の金鉱山の利益で、地球環境銀行を設立し、

「ニカラグア運河」の残りの工事を請け負いたいと2019.8.19、

ニカラグア大使館ロドリゴ・コロアル・キンセップ大使宛<書面>送付済で有る。